令和７年１１月１２日

消費者詐欺被害に関する論文で『日本犯罪社会学会奨励賞』を受賞

教育推進機構 鈴木あい特任准教授が、第 24 回（2025 年度）「日本犯罪社会学会奨励賞」を受賞しました。同賞は、日本犯罪社会学会会員による著書および論文を対象に、それぞれ隔年で 1 点を対象に表彰するものです。鈴木特任准教授による研究は、千葉県内に住む 20 歳以上の男女約 5,000 人を対象に実施された社会調査のデータをもとに、環境犯罪学の理論である日常活動理論の枠組みから、SNS の利用と消費者詐欺被害の関係について分析したものです。

日本犯罪社会学会では、犯罪、非行、刑事司法、及び、それらに関連する諸事象に関する社会科学的研究の活性化と発展、そして、知的資産の蓄積および学術内容の更なる質的向上のため、「日本犯罪社会学会奨励賞」を創設し、若手の会員による著書および論文を対象に、それぞれ隔年で 1 点を対象に表彰しています。「日本犯罪社会学会奨励賞」は、日本犯罪社会学会唯一の表彰制度で、第 24 回（2025 年度）「日本犯罪社会学会奨励賞」は、鈴木特任准教授が受賞しました。

鈴木特任准教授が受賞した研究論文は、千葉県内に住む 20 歳以上の男女約 5,000 人を対象に実施された社会調査の一次データを用いて、消費者詐欺被害のリスク要因について、主に環境犯罪学の日常活動理論の枠組みから、性別・年齢・婚姻状況・収入・SNS 利用など多様な属性・行動変数から実証的に分析したものです。分析の結果、SNS の利用それ自体は詐欺被害リスクと統計的に有意な関係は見られなかった一方、オンライン上でしか会ったことのない人物との接触頻度は詐欺被害リスクの増加と関連していることが明らかになりました。また、詐欺被害に関する各相談機関の認知度は決して高くなかったことから、これら機関の認知度の向上が重要であることが示唆されました。

講評では、一次データに基づき、日本で深刻化するインターネット利用詐欺被害のリスクを可視化し、現代社会の生活様式と詐欺被害との関連を理論的・実証的に解明した点、そして、今後の犯罪社会学の発展、とりわけサイバー犯罪に関する研究の深化への寄与という点から、評価いただきました。

2025 年 10 月 11 日、中央大学茗荷谷キャンパスで開催された日本犯罪社会学会第 52 回大会総会において、表彰式が執り行われました。

受賞論文情報

Suzuki, A. (2024). Routine activities and consumer fraud victimization: findings from a social survey in Chiba Prefecture, Japan. *Crime Prevention and Community Safety*, 26, 373-384.
https://link.springer.com/article/10.1057/s41300-024-00219-2

本論文は、「淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査」(Shukutoku Yomiuri Chiba Social Survey, SYCSS) のデータを使用して執筆されました。「淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査」は、淑徳大学と読売新聞東京本社が共同で実施する千葉県調査です。2023 年を第 1 回とし、隔年で計 5 回（2023 年、2025 年、2027 年、2029 年、2031 年）実施されるもので、鈴木特任准教授は、学外委員として参画しています。本論文でデータを使用した第 1 回調査の詳細は、以下をご覧下さい。

第 1 回淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査
https://www.shukutoku.ac.jp/albums/abm.php?d=55&f=abm00025572.pdf&n=SYCSS23_%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E7%B5%90%E6%9E%9C%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf

（お問い合わせ先）
教育推進機構・特任准教授　鈴木あい
メール：r430@ipc.fukushima-u.ac.jp